

ロフトくん®の部材構成

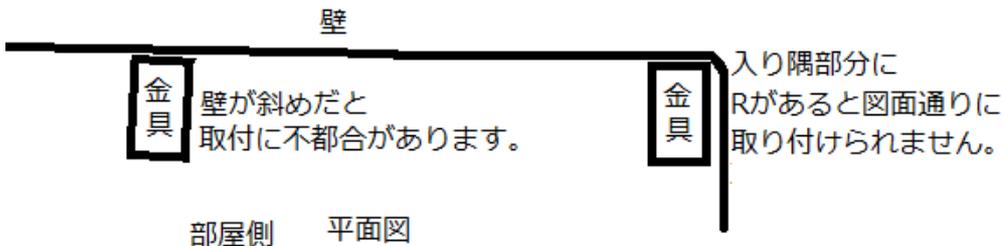
ロフトくんは次の 5 点の部材で構成されています。取り外すことのないロフトくんはロフトくん本体と固定用の掛け金具の 2 点で、また固定式でない 13 段のロフトくんには必ずロフトくん用横揺れ抑止器を含んで構成されています。

1. ロフトくん本体： 中央のビームの両側に足をのせる木の段が交互に付いています。また通常は片側に手すりが付いています。両側に手すりのあるものも製作可能です。
2. 掛け金具： ロフトにロフトくんを掛けるための専用の金具です。右用と左用の 2 個と取り付けビスで 1 組になっています。なお取り付けビスは下地に合わせて添付致しますので下地の状態をご教示下さい。掛け金具は取り外すことのない場合は掛け金具に換えて固定用の掛け金具となります。
3. 壁仮置き用金具： ロフトくんをロフトから外して壁に掛けておくための専用金具。通常は一個で取り付けビス付きです。
4. いたずら防止用の鍵： ロフトから外して壁に掛けておくときに不用意に持ち上げてケガをしないように設置する鍵です。掛け金具・鍵・取り付けビス・ゴムの 4 点で 1 セットです。鍵はロフトくんに取り付けていません。
5. ロフトくん用横揺れ抑止器： 固定式でないロフトくんは、ロフトくんに誰も乗っていないときに横から押すとテコの原理で押した力が倍増してロフトくんの上部に回復しがたい大きな変形を起こすことがあります。そのような不用意な力に対処するためロフトくん用横揺れ抑止器を取り付けることを推奨致します。なお固定式でない 13 段のロフトくんには必ずロフトくん用横揺れ抑止器を取り付けて下さい。

ロフトくん®の取り付け注意点

安全に使えるように次のことに注意してお取り付け下さい。

1. ロフトくんを取り付ける「掛け金具」はしっかりした下地がある所に限ります。安全率を見込んで少なくとも 1,000kg 以上の荷重に耐えられる幅 15cm 厚み 3cm 以上の木材に取り付けて下さい。取り付け用ネジは下地に 3cm 以上の有効部分のねじ部をねじ込む長さが必要です。片側 6 カ所以上有効に留め付けて下さい。下地がコンクリートの場合は別途ご相談下さい。
2. 「壁仮置き用金具」を取り付ける場所はしっかりした下地のあるところに限ります。安全率を見込んで少なくとも 500kg 以上の荷重に耐えられる幅 10cm 厚み 12mm 以上の木材に取り付けて下さい。下地がコンクリートの場合は別途ご相談下さい。
3. 「いたづら防止用の鍵」の取り付け場所はしっかりした下地のあるところに限ります。安全率を見込んで少なくとも 100kg 以上の荷重に耐えられる幅 4cm 厚み 12mm 以上の木材に取る付けて下さい。下地がコンクリートの場合は別途ご相談下さい。
4. ロフトくんは両側手すりのもの以外は必ず片方を壁に沿って取り付けして下さい。
5. ロフトくんは、屋内でお使い下さい。
6. ロフトくんの「掛け金具」を取り付ける面は次の条件を満たす必要があります。



- ①両側の金具の取り付け面が同一平面であること
- ②金具を入り隅に取り付けるときは入り隅にアールがないこと

661-0971 兵庫県尼崎市瓦宮 2-18-15 株式会社杉原クラフト 電話 06-6491-6339

ロフトくん® 使用上の注意点

ロフトくんは、次の点に注意してご使用下さい。正しく使わないとケガをする恐れがあります。

1. 互い違い階段は、階段とハシゴの中間的な性能を持ちます。特にロフトくんは、どちらかというど階段よりハシゴに近いのでハシゴと同じようにお使い下さい。
2. ロフトくんは 5 歳未満のお子様や膝から下の長さがロフトくんの蹴上げ高さより短い方はお使いにならないようにご指導下さい。使わないときは必ず仮置き用金具に掛けて保存して下さい。
3. ロフトくんは必ず手すりを持って、ゆっくりとした動作でお使い下さい。
4. ロフトくんは必ず決まった足からお使い下さい。
5. **ロフトくんの許容荷重は 150kg です。** 他人数でロフトくんをお使いになるときは必ずひとりずつお使い下さい。二人以上ロフトくんに乗らないで下さい。
6. **手すりの許容荷重は 40kg です。** 手すりから身を乗り出したり、横に強く押したり・ぶら下がったり・乗ったり・滑ったりしないで下さい。
7. ロフトくんの上で飛び跳ねたり、揺さぶったりしないで下さい。
8. ロフトくんの上に飛び乗ったりしないで下さい。
9. ロフトくんの上に飛び降りたりしないで下さい。
10. ロフトくんから身を乗り出したりしないで下さい。
11. ロフトくんから床に飛び降りないで下さい。
12. 可動式ロフトくんを「掛け金具」に掛ける場合は、所定の場所より 5cm 位上に仮に立て掛け、そのあとロフトくんの下部の部分を持ち上げロフトくんをしっかりと埋めて下さい。
13. 可動式のロフトくんの場合は「掛け金具」の蝶ナットを締め付けてからお使い下さい。
14. 「掛け金具」に掛けてあるロフトくんの下部をお子様が持ち上げないようにご指導下さい。
15. **「掛け金具」に掛けてあるロフトくんの下部分を横方向へ押さないで下さい。** ロフトくん上部および「掛け金具」に大きな力を生じて回復しがたい歪みを生じます。
16. ロフトくんは長年の使用に耐えられるよう製作していますが、ネジが緩んでいないか常にご確認下さい。
17. 「壁仮置き用金具」にロフトくんを掛ける場合は必ずいたずら防止用の鍵を掛けて下さい。
18. 「壁仮置き用金具」に掛けてあるロフトくんに上らないで下さい。
19. ロフトくんを改造しないで下さい。
20. ロフトくんを使用するときロフトくんが「しなり」ますが、許容荷重範囲内では安全上問題はありません。
21. ロフトくん用横揺れ抑止器が付いている場合は必ずパッチン錠を埋めてからお使い下さい。

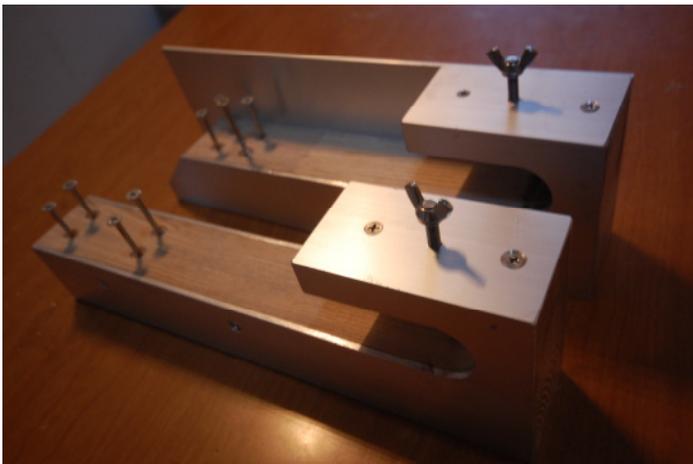
ロフトくんの取り付け手順

下の写真は小社ショールームの特設ロフトにロフトくんを取り付けたところです。下地の位置と大きさがわかっていると 30 分程度しか要しません。



1.

写真のロフトまでは高さは 272cm あります。



2.

「掛け金具」上側は壁側 下側は部屋側



3.

「掛け金具」を所定の場所にネジで取り付けます。壁側の「掛け金具」は入り隅に R が付いていると

正しく付きません。

入り隅部分を直角にしてから取り付けて下さい。

「詳しい取り付けと調整」をご参照下さい



4.

「掛け金具」を取り付けたところ



5.

ロフトくんをロフトに取り付ける場合は上の写真の様に少し上にまず立て掛けます。



6.

立て掛けたあとロフトくんの下を少し持ち上げます。



7.
持ち上げると下まで落ちてしっかりはまります。
通常の使用では浮き上がったり外れたりしません。



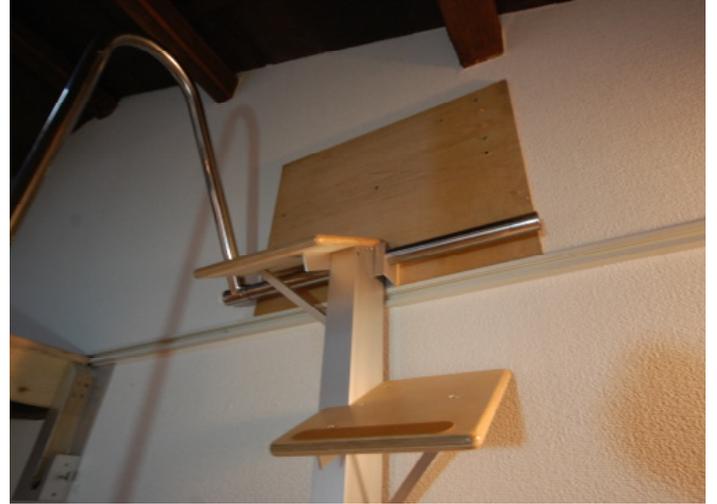
8.
「壁仮置き用金具」を所定の場所に取り付けます。



9.
下の部分に「いたずら防止用の鍵」を取り付けま
す。
ロフトくんを壁仮置き用金具に掛けてから下地の

ある場所で支障がないところに壁用の掛け金具を
取り付けて下さい。鍵の方は掛け金具位置を参考
にして取り付けて下さい。

なお下地位置によって取り付け位置が異なること
があるので、いたずら防止用の鍵は、納入時は付
いておりません。



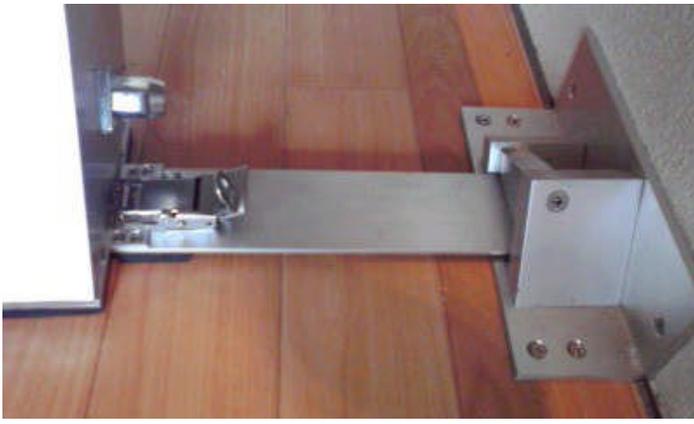
10.
「壁仮置き用金具」にロフトくんを掛けたところ



11.
「いたずら防止用の鍵」をかけたところ



12. ロフトくん用横揺れ抑止器 全景



13. ロフトくん用横揺れ抑止器を取り付けるときは、まずロフトくんを掛け金具に掛け下部を所定の場所に整置し、ロフトくん用横揺れ抑止器のパッチン錠を仮に埋めその場所にビス止めします。全体の調子を見てビスすべてを留め付けます。ビスを取り付けるとき床暖房等があるときは壁面のみ固定します。



ロフトくん用横揺れ抑止器を使うときは、ロフトくんに少し動かしアームの先端をロフトくんの穴に入れます。

ロフトくんと横揺れ抑止器をパッチン錠で固定します。適宜南京錠でいたずら防止を行って下さい。ロフトくんに横揺れ抑止器で固定したところ。通常の力では動かなくなります。

写真のロフトくんおよび補助部材は予告なしにデザイン等が変更になることがあります。

詳しい取り付け手順と調整方法

ロフトくんの取付は次の手順で行い調整して下さい。

取り付け場所の確認



ロフトくんは通常壁際に設置します。上の写真では写真の青のテープの所に壁があるとします。

壁と床は直角していることが好ましいですが、少々違っていてもあとで調整は可能です。

取り付け高さに印を付けます。印の場所に掛け金具を仮止めします。6カ所のビス穴の2カ所を留めます。



掛け金具の取り付け面は同一面であればなりません。下の写真では左側の取り付け面が斜めになっています。同一面にするため写真では紙を挟んでいます。適宜同一面になるよう調整下さい。



掛け金具にロフトくんを掛けます。壁からの距離が同じになるように調整します。

写真では上部は 28cm 下部は 30cm になっています。2cm 調整します。



同じになるように掛け金具の取り付け位置を調整します。写真の場合はロフトくんの下部を左側に移動させるため右側の掛け金具を下げます。通常のロフトくんの大きさでは調整すべき長さの 4 分の 1 を移動させます。



この後すべてのネジをしっかり締めて下さい。

ロフトくんを取り付ける「掛け金具」はしっかりした下地があるところに取り付けて下さい。

安全率を見込んで少なくとも 1,000kg 以上の荷重に耐えられる幅 15cm 厚み 3cm 以上の木材に取り付けて下さい。取り付け用ネジは下地に 3cm 以上の有効部分のねじ部をねじ込む長さが必要です。

片側 6カ所以上有効に留め付けて下さい。下地がコンクリートの場合は別途ご相談下さい。